特定非営利活動法人住みよいあさくらをめざす風おこしの会だより

みんなの目・芽・めっ No.110 2020年/12月

発行 特定非営利活動法人住みよいあさくらをめざす風おこしの会 理事長 星野洋子 事務局 大石☎ 0946-42-4790

第30回風おこしフォーラム 朝倉市男女共同参画センター開設記念
未来へつなぐ ～男女共同参画センターと私たち～

日時：2020年11月21日（土）13：00～14：30
会場：杷木地域生涯学習センター ホール
共催：朝倉市　　**後援**：筑前町　東峰村

パネルディスカッション

パネリスト　中嶋玲子さん（元福岡県男女共同参画センター「あすばる」第４代館長）
松田美幸さん（前福岡県男女共同参画センター「あすばる」第６代館長）
田中富久美さん（筑前町男女共同参画センター「リブラ」館長）
上村一成さん（朝倉市子ども未来課兼あさくら”縁”結び課長）
コーディネーター　柳瀬留美さん（福岡県男女共同参画推進課長）

本年４月の朝倉市男女共同参画センターの開設に伴い、朝倉市と共催で本年度のフォーラムをコロナ禍の中、万全の体制を取りながら行いました。

先ず　パネリストの方々から男女共同参画推進という共通の立場で関わってこられたことを自己紹介も兼ねてお話しいただきました。

次に　福岡県男女共同参画センター「あすばる」の10周年、20周年とその節目で館長を務められた中嶋さんと松田さんに当時の思いや、それぞれの転換期でどう行動されたのかをお聞きしました。語られたのは、当時の事情を的確にとらえた先進的な内容でした。

中嶋さん（10周年）　**フェスタからフォーラムへ。**学びながらエンパワーメント。そして地域から行動（アクション）を起こして行くことに力を注ぎ「男女共同参画地域づくり事業」でまちづくりをしていく実践を行ってきた。

松田さん（20周年）　**つなげる・支える・盛り上げる。**次の世代にどうつないでいくか。地方創生の中に男女共同参画を入れなければうまくはいかない。県内自治体が男女共同参画を牽引できる人材育成・ネットワークを創ろうと「元気塾」の取組を始めた。

続いて

田中さん　教育の場で子どもを通して伝える、子どもと一緒に学べる講座。　リブラでは地域づくりのメンバーの活躍で問題提起をして進めている。

上村さん　家庭内では性別にこだわらず協力してやってきた。自分の中で男女共同参画は、相手への思いやりや配慮が基本になっている。

その後パネリスト間で意見交換が行われました。（言葉のみを取り上げます）

混合名簿のこと　防災と復興場面での男女共同参画　ポジティブアクション　進んでいない分野では具体的な政策を打ち出してほしい　クオーター制　数の力　政治の分野　更なる検討だけでは？　男女共同参画が果たす役割は大きくなっている　いろんな層で我がことの認識が重要　おかしい！と声を挙げよう　それぞれが地域課題を解決していく主体性のあるセンターとして等々

コーディネーターより

沢山のヒントがあった。地域の課題は何なのか、未来につなぎたいものは何なのかを考え、解決するところがセンターであり、行動する場があすみんではないだろうか。県もあすばるも一緒に推進していきたい。

最後に井上センター長は謝辞の中で「男女共同参画の果たす役割が多岐に亘っており、責任の重さを感じている。これを機に取り組みを充実させていきたい」との決意が述べられました。

このフォーラムを通して「**今の日本の男女共同参画の問題は問題が多すぎる。地方創生の中でとりくんでいかなければ何もかわらない。**」の言葉が新鮮で私の胸に突き刺さりました。疲弊する地域社会の中で当事者は私たち。今や官民協働は当たり前だが、そこに今までにはない多様な住民の力をいれていくことが重要。それには広い視野から多面的に推進しなければと、新たな課題と多くのヒントをいただきました。

コロナ禍の中、一時は開催も危ぶまれましたが、この機を逸しては「開設記念フォーラム」はないと冬場を避け、人数制限をし、動画配信をすることで開催することができました。おかげで好評の内に終了することができ、この場を借りて関係者の皆さまに厚くお礼を申し上げます。

アンケート

・「当事者は私たち」「多様な視点で風景が変わり社会が変わっていく」未来へつなぐ 若い世代へ継承が課題
・一人一人が自分らしく生きる…中略…これまでのそれぞれの分野の一歩一歩の歩みで少しずつ実現してきていることを感じながら楽しく話を聴くことができました。
・国･県･市町の専門的な話が聞けて大変良かった。充実した 90 分間でした。
・隣の筑前町と朝倉市の取組の違いが分かった。なぜ隣どうしで違うの。
・男女共同参画という概念が変わったような気が私の中であります。地域で私は何をするべきかを考えなければいけないと思います。
・地域の一住民の立場からいえない地域役員が男性に占められている点が問題です。…中略…行政側から地域に対して強い調子（強制を含め）で対応を促すようなアクションもあってしかるべきだと思います。
・勉強になりました。まだまだ聞きたかったです。第５次の基本計画は男性だけでなく男女同時に意識を変えていく方向性であることが心に残りました。　（星野 洋子）

動画視聴のご案内

朝倉市ＨＰ（期間限定）と「風おこしの会」ＨＰ(期間限定なし)からご覧いただけます。
（風おこしの会で検索するとトップに出る→お知らせ→続きを読む　をクリック）

意思決定の場への女性の参画状況に関する質問
2020 年 10 月 1 日現在

※**市町村議会議長**は議会議員には含みません

	朝倉市	筑前町	東峰村
役職名	女性の数（全体数）	女性の数（全体数）	女性の数（全体数）
市町村長	0（ 1）	0（ 1）	0（ 1）
副市町村長	0（ 1）	0（ 0）	0（ 1）
部長	1（ 8）	0（ 0）	0（ 0）
課長	6（ 36）	3（ 17）	1（ 8）
参事	0（ 3）	2（ 3）	0（ 0）
課長補佐	0（ 4）	5（ 16）	2（ 6）
係長	36（103）	16（ 40）	2（ 13）
教育長	0（ 1）	0（ 1）	0（ 1）
教育委員	1（ 4）	2（ 4）	2（ 4）
社会教育委員	4（ 10）	7（ 10）	2（ 8）
農業委員	1（ 19）	2（ 19）	1（ 14）
行政改革委員	―	―	―
民生委員児童委員	76（154）	27（ 51）	8（ 12）
人権擁護委員	4（ 10）	3（ 7）	1（ 2）
選挙管理委員	0（ 4）	2（ 4）	0（ 4）
市町村議会議長	0（ 1）	0（ 1）	0（ 1）
市町村議会議員	3（ 17）	2（ 13）	0（ 9）
行政相談委員	2（ 3）	1（ 2）	1（ 1）
小学校 PTA 会長	0（ 11）	1（ 4）	0（ 0）
中学校 PTA 会長	0（ 6）	0（ 2）	0（ 1）

審議会等における女性委員の割合

審議会・協議会・委員会は地方自治法第 202 条の 3 に基づいて設置されているものとします

	朝倉市	筑前町	東峰村
審議会	52（143）	31（ 76）	9（ 30）
協議会	17（ 58）	59（156）	3（ 40）
委員会	28（ 92）	77（177）	3（ 41）
女性の参画率	33.1%	40.8%	13.5%

男女共同参画担当課	総合政策課	企画課	住民税務課

『2019 年度 福岡県男女共同参画白書』より

（2020.4.1 現在）

地方自治法第 202 条の 3 に基づく

審議会等における女性委員の登用状況

1 位	北九州市	52.0%
2 位	久留米市	43.7%
3 位	福津市	43.2%
4 位	筑前町	42.0%
	朝倉市	32.5%
	東峰村	12.9%
	県全体	32.9%

男女格差ランキングにおける日本の順位

1999 年 6 月
男女共同参画基本法施行
2000 年 12 月
初めての基本計画を閣議決定
2005 年 12 月
第 2 次基本計画を閣議決定
06 年 79 位／115 ヵ国
07 年 91 位／128 ヵ国
08 年 98 位／130 ヵ国
09 年 101 位／134 ヵ国
2010 年 12 月
第 3 次基本計画を閣議決定
10 年 94 位／134 ヵ国
11 年 98 位／135 ヵ国
12 年 101 位／135 ヵ国
13 年 105 位／136 ヵ国
14 年 104 位／142 ヵ国
2015 年 12 月
第 4 次基本計画を閣議決定
15 年 101 位／145 ヵ国
16 年 111 位／144 ヵ国
17 年 114 位／144 ヵ国
18 年 110 位／149 ヵ国
19 年 121 位／153 ヵ国
2020 年 11 月
第 5 次基本計画の答申

（朝日新聞より抜粋）

朝倉市男女共同参画センター「あすみん」との共同事業

男女共同参画パートナーシップ講座 開催

「地域に活きる　自分らしく」

日　時　　2020 年 10 月 21 日(水) 10:30～12:00
場　所　　杷木地域生涯学習センター らくゆう館 ホール
参加人数　　31 名　　女性農村アドバイザーOG 会員　14 名
風おこしの会会員　15 名
その他(朝倉普及指導センター等) 2 名

今年 4 月1日「朝倉市男女共同参画センター」と改称された「あすみん」と、初めての共同事業である講座を開催しました。

井上センター長と井上男女共同参画・青少年係長より市の男女共同参画を推進するため、効果的な事業を展開する施設として運営していきたいと抱負を語られました。

検温・手指消毒・マスク・フィジカルディスタンスを保つ。
違和感の中での開会も、すぐにいつもの熱気ある講座へ。

女性農村アドバイザーOG 会員さんとの研修交流会で「地域に活きる　自分らしく」をテーマにパネルディスカッションを行いました。パネリストはコミュニティと地域活動団体の役職についているお二人とその彼女たちの活動を敬意をもって応援してある男性お二人に登壇いただきました。

堀真由美さん・・女性農村アドバイザーOG、松末コミュニティ協議会事務局次長
日隈繁雄さん・・松末コミュニティ事務局長
梶原京子さん・・女性農村アドバイザーOG、東峰 TV ディレクター
岸本　晃さん・・東峰 TV 総合プロデューサー

堀さん、梶原さんは専業農家の男性と結婚されましたが、離農を考えた時期もあったと 10 年以上前を振り返ってのお話から始まりました。お二人は農業女性のリーダー的役割を担うための女性農村アドバイザーに認定され様々な研修を受け、またそこで県内の新しい女性たちとの出会いがあり、今も繋がりを大切にされています。お二人はその後、いくつかの新しい役職に就かれ現在があります。

仕事や活動を共にされているお二人の男性からは「女性はアイデアが豊富」や「あまり男性女性と拘っていない」との言葉がありました。

「役を頼まれたらノーと言わずに、人のため自分のため引き受ける」「女性自身が一歩前へ」胸に刻まれた言葉でした。

地域社会はゆっくりとしか変わっていかないと実感していますが、常に勉強や学習の機会は進んで参加したいものです。若い人たちに地域社会の変革を加速させてもらいたいと願いながら、私たちも自分たちの役割を模索しながら地域に貢献できるよう活動を継続して行きたいと気持ちを新たにしました。

（内山育子）

編集後記　　今年の事業は開催日も規模も当初の計画通りに進めることができませんでした。主な活動が 10 月～12 月に集中したことや、参加人数の制限が必要になったことなど初めての経験でした。来年こそは、また皆様とのびのびと活動できるような良き年となりますように。　　（森部佐和子）